

## 成 田 国 際 空 港 の 功 罪

### 1. 成田国際空港開設にともなう 周辺の大気環境の変化について

中 村 圭 三

千葉県北部の下総台地上に位置する成田国際空港は、約1000haの面積を占め、1978年の開設以来1日平均335便もの航空機が離発着している。このことは、周辺地域の自然環境に少なからぬ影響を及ぼすものと考ええる。そこで、本研究においては、成田国際空港開設にともなう周辺の大気環境の変化について調査した。

その結果得られた主な知見は、次の通りである。

- (1) 空港開設以後、冬期間の風系に変化が現れている。
- (2) 露日数は、最近減少傾向にある。
- (3) 1993年4月から9月までの期間に佐倉で観測した降水の76.5%が酸性雨で、この間のpHの平均値は5.05であった。
- (4) 上記の観測においては、日本列島の南岸に停滞した前線上を低気圧が通過した場合（4例）には、全てが酸性雨となり、最も低いpH3.68は、この気圧配置に出現した。また、台風時（5例）には、いずれも酸性雨とは認められなかった。
- (5) 佐倉の低pH化には、 $\text{NO}_3^-$ よりも $\text{SO}_4^{2-}$ の方がより大きく寄与していた。

- (6) 1993年7月10日8時から7月11日8時までの1日間に、成田国際空港を中心とする千葉県北部地域において酸性雨調査を実施した。その結果によると、

- a. 芝山を中心とする地域では、 $\text{NO}_3^-$ 濃度46.42mg/lが観測された。ここは、成田国際空港滑走路の南東方向の延長線上にあり、ジェット機による排気ガスの影響を多分に受けているものと推察される。
- b. 京葉工業地帯に近い地域では、NS比( $\text{NO}_3^-/\text{SO}_4^{2-}$ )が低く0.4程度であるが、ここから東方に向ってNS比が増加する傾向にある。特に成田国際空港付近におけるNS比は最高値6.25に達し、同空港の酸性雨に対する少なからぬ影響が示唆された。

### 2. 成田空港の地元を与えた経済的影響

高 田 洋 子

日本の表玄関とされる成田国際空港の建設が、地元の市民生活に与えた経済的影響は、これまで十分に研究されてきたようには思われない。空港開設に伴う交通手段・経済インフラストラクチャーの整備、空港施設を始めとする大規模建築、周辺産業・工業団地の発展、ニュータウン建設と人々の流入、都市型社会への基盤整備など、地元社会における功罪は、客観的に分